

## コロナ下の世相とジェンダー平等の願い

第12組 組門徒会長 加藤晴郎

○思いもかけない「新型コロナウイルス」の大きな渦に<sup>ほんろう</sup>翻弄されて一年余りが経過しました。この間、私たちが大切にしてきた日常生活や、心のあり様までが影響を受けました。その結果、「ウイルス感染」の不安から活動を制限し、人との交流も減り、毎日の暮らしに充実感や潤いまでが薄れて、心の中が無力感で覆われています。今、まさに宗教による**精神的安定の役割**が求められています。

先日、寂しい出来事がありました。知人の母親が「新型コロナウイルス」で亡くなられ、その状況は、入所する介護施設も感染対策で長期間面接も出来ず、入院した病院も面会謝絶で、亡くなられた後も対面は出来ずにお葬儀をされました。親族が大切な人に寄り添う事も、敬意を表する時間まで奪われた状況に心を痛め、同時に、家族や福祉関係者に対する「コロナ差別」を耳にして言葉を失くしました。

○コロナ下の世相は激変し、差別や理不尽な実態が増大する今年2月、オリンピック組織委員会 森 喜朗会長の「女性の入る会議は時間がかかる」との<sup>べっし</sup>蔑視発言が波紋を広げました。このオリンピックでは「**持続可能な開発目標** SDGs」を採用し「ジェンダー平等の実現」が挙げられており、日本の男女格

差や女性軽視の実態を国際社会に明らかにする出来事でした。

現在、コロナによって立場の弱い女性が特に影響を受け、**非正規労働者**の男性が前年より 26 万人減ったのに対し、女性は倍の 50 万人を数え、飲食関係等パートの女性が職場を失いました。また、昨年**自殺した人の数**は前年と比較し男性は 23 人減り、女性は 935 人も増えています。**家庭内暴力 DV** の相談件数は 17 万件を超え、前年の 1.5 倍を数える現状です。

○1975 年、国連で女性の権利向上と社会進出をめざし「**国際女性デー**」が制定されています。現在は男女格差をなくす「**ジェンダー平等**」の実現が呼びかけられ、宗門が取り組む「**男女両性で形づくる教団**」と、めざすべき目標は同じです。

男女共同参画社会の実現に向けて意識を高め、女性の活躍の場を広げるために宗門挙げて推進に努力して参りましょう。